

2017年度 若手教員研究促進交付金(テーマ)一覧

所属	職	氏名	研究テーマ 等 ※課題名をクリックすると該当する研究課題の研究成果報告書のページへジャンプします。
学校教育	准教授	岡野恵司	多重Z_p-拡大などの岩澤理論の発展研究・数学教育に関する研究
	講師	十川菜穂	ピアノ二重奏に於けるアンサンブル表現を追求・発表
	講師	堤 英俊	インクルーシブな授業づくりに関する国際比較研究—知的障害児の学びへの参加に着目して—
国文	准教授	菊池有希	バイロン受容の日英比較の比較文学的・思想史的研究
	講師	田口麻奈	鮎川信夫と戦後詩をめぐる資料調査およびその公共化
地域社会	講師	富永貴公	男女共同参画推進におけるセクシュアル・マイノリティ関連事業の位置と課題
	講師	小島 恵	化学物質の「安全と安心を市民の目線で考える、諸外国における環境汚染状況の実態調査
国際教育	講師	山辺恵理子	教職の倫理に関する国際比較研究
	講師	ノルドストロム カール ヨハン	戦前の東京を拠点とした「映画製作所P・C・L」の発展について
	講師	デルグレゴ ニコラス	The Development and Implementation of Writing Centers and Peer Learning in Japanese Universities

平成 29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 15 日

研究者	氏名：岡野 恵司		職位：准教授
	所属(学科等)： 学校教育学科		
研究課題名	多重 Z_p -拡大などの岩澤理論の発展研究, 数学教育に関する研究		
研究年度	29 年度 から		29 年度まで
研究費の種類	学術研究費交付金	交付額	250000 円
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500000 円
研究概要等			
【研究概要】 平成 29 年度では、学術研究費交付金、若手教育研究促進交付金を活用して、岩澤理論に関する研究を中心に取り組んだ。国際研究集会 IWASAWA2019 に参加したり、早稲田・慶応などの岩澤理論研究者との共同研究、研究打ち合わせを重ねたりした。特に多重 Z_p-拡大に関して大きな進展があった。この結果を 2 月に開催された野々市研究集会にて発表し、多くの研究者の興味を引くことができた。この結果をさらに深い結果にするべく、現在も研究中である。金沢工業大学の藤井俊氏、千葉工大の伊藤剛司氏と研究のやり取りを重ね、馴分岐岩澤理論、非可換岩澤理論に関する研究に進展があった。この方面の研究も進行中である。 算数・数学教育についても研究、考察を行った。ナスカの地上絵を題材にした比例と測量の授業研究を行い、出版物としてまとめた。アクティブラーニングを用いた授業研究、小学校学習指導論の執筆などにも取り組んだ。また、田中昌弥氏を中心とする重点領域研究に参加し、数学やそれ以外の教育に関する理解と考察を深めた。以上の結果の一部は、本年度の教員免許状更新講習「数と図形の物語から算数の楽しさを学ぶ」の題材として用いられた。 【著書】 ● 岡野恵司, 寺川宏之, 『小学校学習指導論＜第 4 集＞ --教科教育のための手引き--』 【論文】 ● 岡野恵司, 滝井章, 谷合弘行, 寺川宏之, 山中聡恵, 吉岡卓, 『アクティブラーニングの精神に立った算数授業』, 都留文科大学研究紀要第 86 集 ● 岡野恵司 『ナスカの地上絵再現による比例の学習— 諫見泰彦氏の方法の解説 —』 都留文科大学研究紀要第 87 集 【講演】 ● 岡野恵司, 『虚二次体上の $Z_p^{p^2}$-拡大の不分岐岩澤加群について』, 2017 年 2 月, 野々市代数的整数論 2018			

ここをクリックすると、一覧に戻ります！

平成 30 年 2 月 28 日

ここをクリックすると、一覧に戻ります！

平成29年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成30年8月29日

研究者	氏名：堤 英俊		職位：講師
	所属(学科等)：学校教育学科		
研究課題名	インクルーシブな授業づくりに関する国際比較研究—知的障害児の学びへの参加に着目して—		
研究年度	平成29 年度 から		平成29 年度まで
研究費の種類	若手教員研究促進費	交付額	500,000 円
研究費の種類		交付額	円
研究概要等			
【研究概要】 本研究の目的は、知的障害児の通常学級での学びへの参加を保障するためのインクルーシブな授業づくりの方法を解明するために、日本・台湾・イギリスの3か国の状況や取り組みについて比較考察を行うことにあった。3か国は、いずれも島国であり、歴史社会的共通性を有するという理由から、比較対象として選択した。具体的には、まず基礎的な研究として、①各国のインクルーシブ教育・特別ニーズ教育の制度・文化及び実践に関する国内外の先行研究を検討した。その上で、②各国において、中軽度の知的障害児の在籍する通常学級（小学校）を対象に、参与観察と関係者インタビュー（教師や保護者）の調査を実施し、①の結果と照らし合わせながら考察した。 ①の研究については、日本・台湾・イギリスそれぞれのインクルーシブ教育・特別ニーズ教育に関する文献・資料を収集するとともに、特に、日本の学校文化に関する議論に焦点化して分析を行った。それにより、インクルーシブ教育が「学習への参加の保障」と「差異・異質性の尊重」の同時達成を掲げるのに対し、日本の学校（文化）は、形式的平等主義と強い同調圧力によって「同質化」と「差異の一元化」を進めるという特徴を持っていることが明らかになることができた。 ②の研究については、日本と台湾の公立小学校（通常学級）でフィールドワークを実施した。日本の小学校では、小学2年生の「算数」に焦点化し、特定の中軽度の知的障害児のふるまいに着目しつつ、協同的な学びの場面を観察した。また、担任教員へのインタビューも実施した。一方、台湾の小学校では、小学3年生の「国語（中国語）」の時間の協同的な学びの場面を観察した。その結果、インクルーシブ教育への切実性の面での教師意識の違いの一方で、一斉共同体主義的な志向の類似性が見えてきた。 【研究成果】 堤英俊「日本におけるインクルーシブ教育の日常化の課題—〈理想〉と〈現実〉の相克をめぐって—」（湯浅恭正・新井英靖 編『インクルーシブ授業の国際比較研究』福村出版、2018年2月）			

ここをクリックすると、一覧に戻ります！

平成 29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 2 月 25 日

研究者	氏名： 菊池有希		職位： 准教授
	所属(学科等)： 国文学科		
研究課題名	バイロン受容の日英比較の比較文学的・思想史的研究		
研究年度	2017 年度 から	2017 年度まで	
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500,000 円
研究費の種類		交付額	円
研究概要等			
【研究概要】 本研究は、日英それぞれにおけるバイロン受容の特殊性と普遍性、及び、バイロンの持つ文学的・思想的可能性を明らかにすることを目的とする。そして、影響・受容の実証的研究と二国間の対比研究とを組み合わせることで、比較文学の新たな領域を開拓することを目指すものである。 本年度は、まず、前年度に行なった学会発表（「北村透谷『蓬莱曲』とカーライル『サター・リザータス』」（日本比較文学会第 78 回全国大会、2016 年 6 月 18・19 日）の内容に、〈近代の超克〉という新たな論点を加味しつつ、論文「ロマン主義による近代の超克—北村透谷『蓬莱曲』とトマス・カーライル『サター・リザータス』」としてまとめ直し、『比較文学研究』第 103 号に発表した。 上記論文では、北村透谷の劇詩『蓬莱曲』がカーライルの『サター・リザータス』を受容していることを意味を比較文学的に考察し、『蓬莱曲』の大魔王の表象の淵源が、カーライルが批判したベンサム流功利主義の世界観・人間観にあることを明らかにしつつ、大魔王による世界の破壊の表象が、すべてを機械化し合理化する近代主義のもたらすニヒリズムの世界のイメージであることを明らかにした。あわせて、透谷とカーライルの間には、ロマン主義による〈近代（主義）の超克〉の表現に差異があることも確認し、そこに、西洋近代と近代日本における啓蒙主義・合理主義の思想的基盤の有無が関わっている可能性についても示唆を行なった。 カーライルは、バイロン流の「負のロマン主義」（サタニズム）を、自己の			

幸福のみ追求し不幸の意識に拘泥する心性と捉えつつ、ベンサム流功利主義の量的快樂主義の考え方に親和的なものとして、それを「永遠の否定」というかたちで表象をしたわけだが、ここには、バイロニズム（サタニズム）とベンサミズムとを重ね見るというカーライル独特の見解を見て取ることができる。この捉え方は、カーライルと交流のあったサウジーの『トマス・モア卿—社会の進歩と展望に関する対話』（1831年）などで展開されている考え方との類縁を感じさせる。

サウジーは『トマス・モア卿』の中で、資本主義の論理に基づく近代文明を批判する文脈で、その根幹にある「マモン神」を信仰する営利精神を、「モレク神」よりも無慈悲な悪魔を信仰する心性である、と述べている。さらにサウジーは、『トマス・モア卿』の約十年前の著作である『審判の夢』（1821年）の序文の中で、バイロニズムを念頭に置きつつ、それを、「ベリアル神」よりも「モレク神」よりも邪悪で不遜なサタニズムである、という言い方で難じるということをしていた。ここには表現上の共通性が見られるわけだが、ここから、サウジーが、1821年時点でのバイロニズム批判の論理をさらに発展させて、1831年時点での（資本主義的近代文明を支える原理の一つである）営利精神批判として展開するということを行なったのではないか、という仮説を立てることができるように思われる。そしてこれは、バイロニズム批判と（同じく資本主義的近代文明の原理の一つである）功利主義的精神批判とを連結させるカーライルの見方との類縁性が見て取ることができる。

本年度、サウジーとカーライルの読み解きから明らかにし得たことはここまでで、サウジーのバイロニズム批判をカーライルが発展的に継承した道筋を明確にたどることはできなかったが、来年度は、この問題をさらに追究し、上記の仮説の論証をしていきたいと考えている。また、本年度、前年度からの継続行として、日本におけるバイロン書誌のデータベースの作成、及び、イギリスにおけるバイロン受容に関する文献の収集・精査も行なった。来年度も引き続き行なっていく所存である。

【論文】

・菊池有希「ロマン主義による近代の超克—北村透谷『蓬萊曲』とトマス・カーライル『サーター・リザータス』」（『比較文学研究』第103号〈特集イギリス・ロマン主義の受容と変容〉、2017年9月、pp.39-68）

[ここをクリックすると、一覧に戻ります！](#)

平成 29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 31 日

研究者	氏名：田口麻奈		職位：講師
	所属(学科等)：国文学科		
研究課題名	鮎川信夫と戦後詩をめぐる資料調査およびその公共化		
研究年度	平成 29 年度 から		平成 29 年度 まで
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500,000 円
研究費の種類		交付額	円
研究概要等			
【研究概要】 平成 29 年度は、鮎川信夫や「荒地」と関わりの深い 1950 年代の同人誌（詩誌）約 750 冊を公共性の高い資料として日本近代文学館へ寄贈した。今まで現物未確認とされてきた多くの同人誌を公共化したことによって、戦後文化全般の研究に寄与することができた。また、これら一聯の貴重資料に基づき、研究論文を発表した。この研究成果は、私が現在研究中の「反戦平和のための詩歌原稿展」（1952 年に姫路で開催された詩歌展）とも関わりが深く、1950 年代の文化運動を研究する人々にとっても有益な研究成果であることから、現在、関心を同じくする 2 名の研究者（広島大学、東京外国語大学）と協力してこの成果を発展させている最中である。 また、平成 29 年度の計画においては研究の多層化や国際化を目指しており、国内外の研究者と協調するためのネットワークの構築が重要な課題であった。海外の研究者との連携は、予定通り、EASJS（European Association of Japanese Studies）に参加し、「荒地」の詩のフランス語訳を手がけるカリン・アルネオド氏と意見交換の機会をもった。学会開催地のリスボンへ赴くに当たって、交付金の大部分を旅費として支出することになったが、アルネオド氏との研究交流を実現できた意義は大きく、研究の多層化・国際化の促進という点において大きな収穫と展望を得た。 【成果発表】 ・「「荒地」と「囲繞地」―広島詩壇における〈荒地以後〉の形成―」（『国語と国文学』二〇一七年五月） ・「新収蔵資料紹介 宮田千秋氏旧蔵資料のこと」（『日本近代文学館』二〇一七年七月）			

ここをクリックすると、一覧に戻ります！

平成 29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 | 月 24 日

研究者	氏名：富永貴公		職位：講師
	所属(学科等)：社会学科		
研究課題名	男女共同参画推進におけるセクシュアル・マイノリティ関連事業の位置と課題		
研究年度	2017	年度 から	年度まで
研究費の種類	学術研究費交付金	交付額	250,000 円
研究費の種類	若手教員研究促進費交付金	交付額	500,000 円
研究概要等			
【研究概要】 本研究は、セクシュアル・マイノリティに関わる学習機会の提供を行う男女共同参画行政事業に着目してその到達点と課題を考察するものである。今年度は、以下 3 点の研究、および、研究遂行に求められる条件の整備を行うことができた。 ① 社会教育研究において、女性の学習に関わる議論やジェンダー問題の学習論的な検討は相当の蓄積があるが、セクシュアル・マイノリティを含め、ジェンダーとしてのセクシュアリティに関わる学習の実践的、理論的な検討は急務でありながら、手薄な分野である。女性の学習からジェンダー問題学習の蓄積を引き受けて展開される今日的な性と生に関わる学習の視点について、理論的な検討を行った（業績 1）。 ② 男女共同参画関連施設におけるセクシュアル・マイノリティについての事業は量的な拡大の途上にあるが、かねてからのセクシュアル・マイノリティ当事者（支援）団体との協働を含みながら、男女共同参画関連施設による主催事業として、既存の事業と関連させて多様に開催されている。①の理論的な検討にもとづき、これらの量的拡大過程を跡付け、それら事業の内容と方法の検討を行った（業績 2）。 ③ また、社会教育施設における女性たちによるジェンダー問題学習の今日的な意義の検討（業績 3）を行うとともに、日本社会教育学会が重点的に取り組む研究課題に採択をされ（プロジェクト研究名「ワークライフバランス時代における社会教育」、富永貴公研究代表）、学会内外における研究活動にむけた整備を行うことができた。 【研究業績】 1. 富永貴公「社会教育を『クィアする』：女性、ジェンダー、セクシュアル・マイノリティ」『月刊社会教育』No.738、P.P.58-61、2017 年 10 月。 2. 富永貴公「男女共同参画関連施設におけるセクシュアル・マイノリティに関わる事業の展開」『都留文科大学研究紀要』第 87 集、2018 年 3 月刊行予定。 3. 池谷美衣子・富永貴公「女性たちが学ぶことの今日的な意味：国立市公民館における女性講座参加者の経験から（仮）」『社会教育学研究』第 54 集、2018 年 6 月刊行予定。			

ここをクリックすると、一覧に戻ります！

平成 29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 17 日

研究者	氏名：小島 恵		職位：講師
	所属(学科等)：地域社会学科		
研究課題名			
研究年度	平成 29 年度 から		年度まで
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500,000 円
研究費の種類		交付額	円
研究概要等			
【研究概要】 前年度より継続している共同研究「安全・安心ワークショップ」に引き続き参加し、水俣病・化学物質過敏症・アスベスト疾患に対する科学者と法学者の対応が現在の知見からみてどのように評価されるかを時系列にそって整理する作業を続けている。これらの基礎的な研究により、今後おこりうるリスクへの対応方法を幾通りか見いだすことが成果として見込まれており、次年度も継続して研究を続ける予定である。 あわせて、現代の都市型大気汚染訴訟やアスベスト集団訴訟を検討するのに必要な共同不法行為の研究を進めることができた。四大公害の時代とは違った理論研究が必要となる分野であり、また現在首都圏アスベスト訴訟が係属中であることもあり、現代に意味をもつ理論研究を示すべく次年度も継続していきたい。 さらに、遺伝資源の衡平なアクセスと利益配分に関するスキームのあり方についての研究に着手した。今年度は基礎的な資料収集を終えるにとどまったが、名古屋議定書が日本について発効し、今後議論が活発になることが確実な分野であるため、最新の動向を注視して研究を続けていく。 【学会発表、書籍収録等】 化学物質過敏症とアスベスト疾患に対する法的な対応の変遷について、「安全・安心ワークショップ」で報告した。 共同不法行為についての判例評釈を執筆した（平成 30 年度 9 月刊行予定）。 学会回顧を執筆した。 遺伝資源の衡平なアクセスと利益配分について雑誌特集を企画中。			

[ここをクリックすると、一覧に戻ります！](#)

平成29年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成30年2月28日

研究者	氏名：山辺恵理子		職位：講師
	所属(学科等)：国際教育学科		
研究課題名	教職の倫理に関する国際比較研究		
研究年度	平成29年度から	平成29年度まで	
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	400,000 円
研究費の種類		交付額	円
研究概要等			
【研究概要】 本研究は、教職の倫理 (Teaching Ethics) に関する考え方や規定の国際比較研究を行い、国際教育学科で 2017 年後期より開講される「教育と哲学 (Philosophical Issues in Education)」の教材開発に生かしつつ、投稿論文の形で研究成果を報告することを目指す研究プロジェクトである。 アメリカやオランダなど、「教師のスタンダード (Teacher Standards)」や「教師教育者のスタンダード (Standards for Teacher Educators)」などを作成している国や地域の資料を見ると、その中に文化や宗教などの多様性に対するアウェアネスや寛容性について記載された項目があったり、教員養成課程の中に必修科目として教職の倫理に関する授業が設置されていたりする実態がわかる。一方の日本においては、道徳教育に関する授業は教職を目指す学生にとって必修であるのに、その道徳を教える教師自身の道徳性について深く考えるための授業は設置されていない。古くから「教師の資質」の問題は日本でも議論されており、学校や教師が何かしらの問題に関わる度にメディアでは教師の質や人間性を問うことを繰り返してきたにも関わらず、教師の倫理性に切り込む制度は十分整えられていないのが現状と言える。 こうした状況を踏まえて、本研究では1年をかけて、主に英語で出版された資料の収集を行い、こうした国や地域毎の違いが生じた背景について探究した。 研究成果は、本学の「教育と哲学 (Philosophical Issues in Education)」の教材開発に生かすとともに、下記の書籍の出版並びに投稿論文につながった。 【研究成果】 ・ 武田信子、山辺恵理子 (監訳) 『玉川大学出版会、2017 年 ・ Yamabe, E. (2018). Missing Pieces in the Japanese Argument on “Zero Tolerance” Policies in Schools: Framework and Attempt to Connect the Arguments of Teachers and Researchers. Annals for Tamagawa University Research Center for Teacher Education, No. 3.			

ここをクリックすると、一覧に戻ります！

平成 29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 30 日

研究者	氏名：ノルドストロム カール ヨハン		職位：
	所属(学科等)：国際教育学科		
研究課題名			
研究年度	2017	年度 から	2017 年度まで
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500.000 円
研究費の種類		交付額	円
研究概要等			
【研究概要】 本研究は戦前の東京を拠点とした「映画製作所 P・C・L」の発展についてである。無声映画からトーキー映画への移行は、映画史における最も重要な出来事である。本研究は、日本初のトーキー映画製作所であるピー・シー・エル (Photo Chemical Laboratory) の、1933 年から 1938 年における歴史的展開と、同社製映画の特徴を分析し、昭和初期に興隆する「モダニティ」という概念と、それに付随する大衆文化の形成を考察する。 映画は、大量生産による経済と消費社会において、既存の伝統や価値を覆す新進の文化産業であった。1920～30 年代にかけて、日本の映画産業が飛躍的に発展し、人々の娯楽の中心となり、「モダニティ」の形成に果たした役割に注目する。 やがて日本を代表する映画会社である東宝に発展する P・C・L の作品群が日本映画界に与えた影響は多大である。当研究は、国内でも先行研究が少ないこの史実に着目し、散逸しがちな資料を再構築し、国際的且つ学際的論考を試みるものである。 東宝前史に特化した研究ではあるが、幅広い社会的な問題について検討する（研究計画参照）。世界共時的な風潮であったモダニズムの時代を通して、映画に携わる日本人達が、いかに国外の流行に連動し、そこで制作された作品がどのように日本と西洋を繋ぐ架け橋になったかを検証する。これは、戦前から現代へ続く大衆文化の起源を探ることでもあり、映画という大衆娯楽のメディアを介して、日本のポピュラーカルチャーの独自性と国際性へ関心と理解を深めることに寄与する。 応募者はこの間では、特に P・C・L が 1930 年代半ばから日本映画界の製作制度、いわゆる映画プロダクション・システムにどのような影響を与えたかを資料調査研究して来た。または「サウンド版映画」と言う初期サウンド映画の一つ種類（音楽とサウンドエフェクト付のサイレント映画）のスタイルや製作史と産業史について紙資料で調査を行って、この研究結果は論文にまとめて、この研究結果は来年度に国際出版予定である。 【学会発表、書籍収録等】 1. "The Joy of Working: The Salaryman at Work and Play in Toho's 1950s Cinema",			

EAJIS, Portugal, Lissbon, 2017.9.2.

2. "Diamonds of Toho", Kinema Club, England, Norwich, 2017.6.8.

3. "Revisiting the Modern Girl: Takehisa Chieko at Studio Toho", SCMS, Canada, Toronto, 2018.3.17

ここをクリックすると、一覧に戻ります！

平成 29 年度 学術研究費等交付金 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 14 日

研究者	氏名：デルグレゴ ニコラス ダーク		職位：講師
	所属(学科等)： 語学教育センター		
研究課題名	The Development and Implementation of Writing Centers and Peer Learning in Japanese Universities		
研究年度	29 年度から		29 年度まで
研究費の種類	学術研究費交付金	交付額	250000 円
研究費の種類	若手教員研究促進交付金	交付額	500000 円
研究概要等			
【研究概要】 Through the combination of the Academic Research Grant and Young Researcher Grant, I was able to attend conferences and visit several writing centers in universities located throughout Japan. My main area of research is the development and implementation of Writing Centers in Japanese Universities. While Writing Centers and Writing Center Research has a long history in North America and Europe, it is still a relatively new concept in Japanese higher education. At the beginning of the academic year 2017, I was pursuing two possible ideas for research under the larger umbrella of Writing Center research. The first was the relationships of power between tutors who are younger or of a lower academic standing than the participant in the tutorial session. For this research, I contacted tutors at a large private university in Tokyo, where the sessions were recorded and transcribed. I reviewed the transcriptions and looked for instances of positive tutor-writer interaction in a reversed power-structure. I published my preliminary findings in the Tsuru University Journal. The greatest difficulty was finding sessions that fit into this role-reversal. My other, smaller research activity was a review of exit surveys used at different writing centers both domestically and internationally. I analyzed some flaws in data collection that if revised, could better help tutors and writers. I presented these findings at a Peer Learning Conference at Hofstra University in New York. 【論文】 Delgrego, N. (2018) Peer Learning and Academic Standing in Japanese Writing Centers: Preliminary Findings. The Tsuru University Review, 87, 265-276. 【学会発表】 Delgrego, N. (2017) <i>Just One More Thing Before You Go – Writing Center Exit Surveys</i>. 2017 National Conference on Peer Tutoring in Writing (NCPTW) Hofstra University, NY.			

ここをクリックすると、一覧に戻ります！